

ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 — それを可能にする環境整備 —



《第 1 部》

事例発表①「高齢者とペットの居場所事例調査」 公益社団法人 Knots

【スライド 01】 【スライド 02】

皆さま、こんにちは。

公益社団法人 Knots の中尾です。どうぞよろしくお願いたします。

【スライド 03】

Knots が神戸市より管理運営業務を受託している「こうべ動物共生センター」の相談業務では、高齢者ご本人やご家族、関わる福祉関係の方々から、「入院や施設入所のために、飼っている犬や猫を飼うことができなくなったので引き取ってほしい」「どうしたら良いですか」というような相談を頻繁に受けています。これは神戸市だけでなく、近年、多くの自治体でも、飼養動物の引取りの主な理由となっています。何とか、最後まで共に暮らす選択肢はないのだろうか、相談を受けながら日々感じております。

「人生の最終段階における高齢者とペットの居場所」は、実はこれまでも議論されてきた古くて新しい大きな課題です。

Knots は、スライドに示しましたように、これまで開催してきたシンポジウムや国際会議において、これらの課題に向き合い、議論と考察を行ってきました。この成果は、2016 年に論文として発表しています。

今回、Knots では、ペットの飼育が可能となってきた神戸市市営住宅の現状聞き取りのほか、シニア向け分譲マンション、介護付き有料老人ホーム、ペット共生型有料老人ホーム、グルー

プホーム等を訪問させていただき、「高齢者とペットの居場所事例調査」を行いました。

今回の事例調査結果をもとに、皆さまと「人とペットがずっと幸せに暮らせる社会システム」を実現する方策を考えていきたいと思っています。

【スライド 04】

まず、神戸市営住宅でのペットの受け入れについて、現状の確認を行いました。

飼育ニーズの増加を受け、小規模戸数住宅で市がアンケートを実施し入居者全員の同意が得られた住宅のみペット飼育可能な住宅へ転用を行っています。

現時点では、こちらにお示しした 6 カ所がペット飼育可能な住宅になっています。入居時点でペットを飼育していなくても、入居後に飼育したい場合、ペット飼育可能住宅では、それも可能ということです。

今後もペット飼育可能住宅を増やしていく予定はあるそうですが、基本的には市営住宅はペット飼育禁止であり、規約違反などで飼育していることがわかると、住人に対しては飼育しないように指導をします。

また、ペット飼育可能住宅に関しては、新規入居の方が対象となっており、例えばペット飼育不可の住宅で飼育をしていた場合、同じ市営住宅間でもペット飼育可能な住宅への転居はできないため、いったん別の民間住宅などに転居した後、改めてペット飼育可能住宅を申し込むということになりますが、その場合はその部屋が空いていないと申し込みができないということになります。

【スライド 05】

高齢者施設にも何軒か訪問させていただきました。シニア向け分譲マンションや有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅など、徐々にペットとの同伴入所が可能になっている施設が増えつつあります。

シニア向け分譲マンションの「中楽坊」の事例については、後ほど、運営管理会社の取締役を務めておられる、NPO 法人老いの工学研究所・理事長の川口雅裕様に発表していただきます。

【スライド 06】

有料老人ホームでは、大阪のペット共生型有料老人ホーム「ペピイ・ハッピープレイス TAMATSUKURI」の事例を紹介いたします。

こちらの施設は、介護認定の有無にかかわらず入居が可能で、人も動物も安心安全に暮らせる頭数として、猫だけなら3頭、犬だけなら2頭、猫と犬の両方であれば最大3頭までの飼育が可能となっています。入居者の9割がもともと飼育されており、1割は入居後に飼育をされているそうです。万が一飼い主さんが飼育できない状況になった場合、ペットの行き場がなければ、そのままホームで飼育してもらうことができ、施設が最後まで責任を持って世話をすることも可能だそうですが、ペットの年齢や性格等を考慮して、新しい飼い主さんを探す対応もされています。

敷地内に動物医療機関が併設されており、ペットのケアについては動物看護師によるサポート体制が整っています。また、飼育者は月額サービス費を負担し、メディカルチェックやペットフード等一定のサービスを受けることができます。また、飼い主が不在のときには、ペットシッターの世話が受けられる有料サービスもあります。

室内はペットスペースやペットドアが備えられているほか、キャットウォークが設置されている猫専用の居室もあり、施設内には猫のロンパールーム、トリミングサロンや犬の保育園、犬用プレイルームやドッグランもあります。様々なサポ

ートを得ながら、生涯を通してペットの適正飼養が可能になっていると実感しました。

訪問した際、ちょうど、お散歩に出られる飼い主さんと出会いました。ワンちゃんが施設のスタッフ皆さんに愛され、快適な暮らしに満足していることをお聞かせくださいました。そのお姿を拝見して、安心して暮らせることを心強く感じておられる様子が伝わってきました。

【スライド 07】

さらに、現在ペットを飼育している高齢者の方のグループホームの事例です。

神戸の「グループホームうみのほし魚崎」では、18年ほど前に、職員の方が飼えなくなったミックス犬のメルちゃんを飼っていました。

数年前に、自宅でインコを飼っていた方が入所の際に連れて行けないということで、近所の保育園にお譲りしたそうですが、ご本人が亡くなるまでずっとインコのことを気にしておられたそうで、職員の方はその方から明るさが失われてしまったことが、ずっと気にかかっていたそうです。

昨年、動物関連の専門学校から、数頭の犬に訪問してもらい、利用者の方の普段見られないような笑顔に接したことで、18年前に飼育されていたメルちゃんがいた頃を思い出し、利用者の方や職員の方、共に良い影響があるのではと考えられ、施設でまた犬を飼うことを提案されたところ、利用者の方やそのご家族からは反対の声は出なかったそうです。

ところが、犬の苦手な職員の方3名が反対されたそうです。この方達には、犬に関わらなくてもいいと説得し、今年2月、繁殖引退犬の保護犬でマルチーズの7歳、リリーちゃんを施設に迎えました。

リリーちゃんが、利用者の方や家族の方からもかわいがられていく中で、反対していたスタッフも、「かわいい」「この子は別」と、今では3人共がメロメロになっているということで、これには施設長さんも大変驚かれたそうです。

リリーちゃんがいることで、職員のストレスが減っており、この半年間、離職希望する職員がいないそうです。

「施設の運営上、飼育にかかる費用が必要なこと以外に、デメリットはない」ということも仰っていました。

今後は法人内の他の施設でも犬を飼うことを推進し、ゆくゆくはペットを連れて入所できる施設を作りたいという希望もお聞かせくださいました。

このように、最近ではペットと暮らせる住まいが増えつつあり、新築のマンションなどでは条件こそありますがほぼペット飼育可能となってきています。

【スライド 08】

谷口先生のご講演からも学んだように、高齢者がペットと暮らすことで、介護費が抑制されたり、認知症の発症リスクが軽減されるなど、健康寿命の延伸に効果があることがわかってきているにもかかわらず、現状ではどうしてもペットを手離さざるを得ないという問題も解決するには時間がかかると思われます。例えば介護保険等でペットの世話が対応可能になったり、官民の連携によって飼い主の入院時などの預かりサポートを行うなど、ペットを手離さなくても良い方法を選択できる社会の仕組みづくりが必要不可欠となってくると思います。仕組みが整うまでの間に、どうしても最後まで一緒に暮らせない状況が想定される場合は、飼い主さんが元気な間に預け先や譲渡先等のペットの行き先を探しておくなど、いざというときの備えが飼い主さん及びペット双方の安心な暮らしにも繋がるのではないのでしょうか。

【スライド 09】

私たち Knots は、必要な方が必要な支援を受けられるペットとの共生プラットフォームを構築

し、この仕組みを通じて、地域の課題解決やコミュニティの再構築に貢献できると考えています。

特に防災の面では、プラットフォームでの日常的な情報共有が、緊急時に「誰をどのように支援すれば良いか」事前に準備することを可能にします。支援の必要な方が、別の面では支援を提供する側にもなり、様々な世代の様々な課題解決を図ることができるコミュニティの力の醸成に貢献します。

【スライド 10】

本日、このシンポジウムにご参加いただいている皆さまとまた新たな「結び目」を作り、官民が連携して「人もペットもずっと一緒に暮らせる街」を実現できるよう尽力していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

それでは、シニア向け分譲マンション、中楽坊の事例につきまして、川口様、どうぞよろしくお願いたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

人と動物の共生およびSDGs推進シンポジウム 2024
Symposium on Human-Animal Coexistence and SDGs Promotion 2024

**「ペットとの暮らしを活用する豊かな社会
—それを可能にする環境整備—**
"A rich society utilizing life with pets
—Creating an environment that makes this possible"

会場 神戸ポートピアホテル「音楽の間」
主催 公益社団法人 Knots

【スライド 01】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

《神戸市営住宅》
入居者全員の同意が得られた住宅のみペット飼育可能な住宅へ転用 → ニーズの増加に対応

現時点では6ヶ所
鹿の子台南住宅1号棟 / ヘルデ玉津住宅2号棟 / 押部谷住宅7号棟 / 押部谷住宅13号棟 / 王居殿第二住宅3号棟 / 横尾住宅26号棟

基本的には市営住宅はペット飼育禁止だが、状況を見ながら飼育可能住宅を増やしていく予定

【スライド 04】

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**《第2部》
人とペットが幸せに暮らせる環境整備を
どのように行うか？**

事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

- 川口 雅裕 氏 (NPO法人老いの工学研究所)
- 公益社団法人Knots

【スライド 02】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

《高齢者施設の事例》

- シニア向け分譲マンション
- 有料老人ホーム
- グループホーム
- サービス付き高齢者住宅 など

ペットとの入居可能施設が増えつつある

① シニア向け分譲マンション

事例発表①の後半に、シニア向け分譲マンション「中楽坊」の事例を、NPO法人老いの工学研究所・理事長の川口雅裕様にご発表いただきます

【スライド 05】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

こうへ動物共生センター
Kobe Center for Human-Animal Interaction

高齢者の入院・施設入所という理由で、「飼っているペットの行き先がないがどうすれば良いか」という相談を受けることが多い

2003年 シンポジウム
「元気な高齢者と伴侶動物が安心して暮らせる社会システム」

2014年 ICAC KOBE 2014
「伴侶動物とずっと一緒に暮らせる社会」

2015年 ICAC KOBE 2015
「地域を幸せにする伴侶動物飼育支援システム—伴侶動物の暮らしを地域活性化へ」

2016年 論文
「伴侶動物との暮らしを活用した「高齢者が幸せに暮らせる社会システム」の提案」

これまでも議論されてきた古くて新しい大きな課題

人生の最終段階における高齢者とペットの居場所

【スライド 03】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

② ペット共生型 有料老人ホーム
「ベビー・ハッピープレイス TAMATSUKURI」

- 入居者の9割がもともと飼育
- 1割は入居後に飼育
- ペットの行き場がなければホームで飼育可（飼い主探しも対応）
- 敷地内に動物医療機関が併設
- ペットシッターの有料サービス有



ペットと共に生涯安心して暮らすことができる施設

【スライド 06】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

③ グループホーム
「グループホームうみのほし魚崎」

- ・ 保護犬のマルチーズ（7歳）を施設に迎えた
- ・ 職員のストレスが減り、半年間、離職希望者がいない

↓

法人内の他の施設でも犬を飼うことを推進し、ゆくゆくはペットを連れて入所できる施設を作りたい

7

【スライド 07】

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT

公益社団法人 老いの工学研究所 & Knots

ご清聴ありがとうございました



13

【スライド 10】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

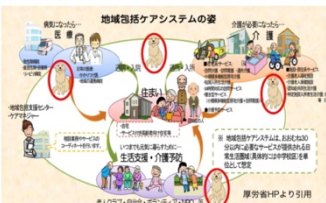
事例発表①
「高齢者とペットの居場所事例調査」

課題 高齢者にごそペットとの暮らしが必要であり、健康寿命の延伸に効果があることが分かってきているにも関わらず

現状: ペットを手離さざるを得ないという問題解決に時間がかかる

例えば

- ・ 介護保険等でペットの世話が対応可能になる
- ・ 官民連携によって飼い主の入院時などの預かりサポート など



地域包括ケアシステムの姿

介護が必要になったら

犬が介護システムに活用されたら...

ペットを手離さなくても良い方法を選択できる社会の仕組み作りが必要不可欠

8

【スライド 08】

【公益社団法人Knotsによる事例発表】

必要な方が必要な支援を受けられるペットとの共生プラットフォームを構築

市民ひとりひとりに寄り添う課題解決

【高齢者】 生活支援 / 介護予防 / 孤立防止
【子ども】 子育て支援 / 健全育成 / 「いのちの大切さ」教育

高齢者・サービス提供
地域との共助/拠としてのサポート
課題と課題

官民協働の場《共生プラットフォーム》
新規ビジネスの創出と既存ビジネスを活用し、地域課題の解決に向けた事業を行う

地域
・ 地域包括支援センター
・ アドボケート
・ 児童相談所 等
・ 福祉事務所・警察
・ NPO 等
・ 学校関係

動物支援センター
・ 伴侶動物の飼育支援
・ 飼い主と動物との接し方
・ 動物福祉
・ 動物保護活動
・ 動物ボランティア等

寄居舎
・ 動物病院
・ 動物看護士
・ フランチャイザー等
・ 獣医師
・ 団体 等

Knots 公益法人として、市民・企業・団体・行政・学校・研究機関等との様々な連携を創り、支え、つなぐ役割

緊急時に「誰をどのように支援すれば良いか」事前に準備することを可能にする
様々な世代の様々な課題解決を図ることができるコミュニティの醸成

9

【スライド 09】